

センター試験 世界史B (本試験) ワンポイント解説

第1問	問1	問題文では「世界史上における法律について述べた文として誤っているもの」と指定しているが、インドの『マヌ法典』は、実は明確な法律集などではなく宗教上の規範集であるため、内容をよく学習している受験生ほど③に疑いを持ちそうである。しかし④のホルテンシウス法は明らかに共和政ローマの法でありギリシアではないのだから、これが正解であることは明白である。
	問2	センター試験では珍しく、写真に示されたものの名称を直接答える問題である。しかし、問題文での“副葬品”・“ラクダの上に西域人”というヒントから考えるだけで唐三彩だと割り出せてしまう。そのため、この写真を見た経験は必要ない。慌てずに考えればよい問題である。
	問5	aの兵馬俑は、一般常識としては知られていても、入試問題としてはかなり細かい用語であり、教科書にもほとんど記載されていない。また、これは正誤の組み合わせを答える問題のためaの文の正誤の判断が不可欠であり、結果的に兵馬俑の知識がないと解けない問題になってしまっている。したがって、センター試験としては非常に難易度が高いものだと言えよう。
	問6	ウイグルを滅ぼしたのがキルギス人というポイントは、教科書での記載は多いが受験生にはやや細かいと感じられるところだろう。しかし①の突厥とササン朝によるエフタル攻撃や④のチングス＝ハンによるホラズム朝崩壊は必須の知識であり明確に正文だし、③のカラ＝ハン朝によるサーマーン朝滅亡も押さえておくべきポイント。したがって、キルギス人を忘れている場合には、①・③・④を正文として消去法で②を誤文と割り出しても正答は可能である。
	問9	文化史に関する年代整序(並べ替え)問題であるが、まずここではbのペトラルカがイタリア＝ルネサンス初期(14世紀)の人物(叙情詩をうたった)であることを知っていなければならない。これに対し、aのエラスムスはルターへの協力を拒否した人物だと知っていれば16世紀前半(または初め)の事項だとわかる。そしてセルバンテスは、レパントの海戦(1571)に参加した経験を持つと知っていれば16世紀後半の事項だと割り出せる。だが、これら3つのポイントは入試問題ではやや細かい部類に入るため、3つすべてを知っていて自信を持って並べ替えられた受験生は、そう多くはないだろう。
第2問	問1	キャフタ条約(1727)が、モンゴル北方でのロシア・清の国境を画定するものであり雍正帝の時代だったというポイントはもちろん重要だが、これと混同しやすいのは康熙帝時代のネルチンスク条約(1689)であろう。しかしこの問題ではネルチンスク条約ではなく南京条約を挙げているので、非常に正答しやすい平易な問題である。
	問4	受験生、特に高3生は現代史の学習に手が回らずおろそかになりがちだが、冷戦終結時やその直後の諸事件は、もはや一般的な事項として定着しており、センターでも避けることはできない。この問題もその1つであり、ポーランドの“連帯”やルーマニアのチャウシェスク政権崩壊という事項は頻出のものである。
	問7	これも現代史だが、中越戦争の発生までの流れを押さえていないと解けないため、かなり厄介な問題である。実際には、ベトナム戦争の後半期にロン＝ノルのクーデタからカンボジア内戦が発生(1970)→ベトナム戦争終結(1975)→クメール＝ルージュの勝利によりポル＝ポト政権成立(1976)→ポル＝ポト政権の虐殺によりカンボジア難民が大量に発生／ベトナムに流入→ベトナム軍のカンボジア侵攻(1979)→中越戦争(1979)、となる。
	問8	近年では頻出となっているが、琉球王国は島津氏に征服された後、日本の江戸幕府と清の双方に朝貢する両属体制をとっていた。そのためaは誤りであるが、島津氏という用語まで明示してあるため、迷った受験生もいたのではないだろうか。

第4問	問1	<p>①の台湾出兵(1874)は、近年では頻出と言った方がよい事項であるが、明治時代初期に日本領となった沖縄(琉球)の漁民が台湾で殺害された際に、沖縄(琉球)が日本領であることをアピールするため明治政府が実行した事件である。したがって、日清戦争(1894~95)により台湾が日本領となった後の事件ではありえない。ということは、19世紀で正しい。その他、②・③とも19世紀中のことだと判断しやすい内容だが、④には注意が必要。日韓協約は3次にわたって結ばれているが、第1次日韓協約(1904)は内容の重要度が薄く、教科書でもあまり記載されていないため、その時期を判断できず迷わされた受験生が相当数いたのではないだろうか。</p>
	問2	<p>センター試験では、各事件の詳細な数字の年号に頼らずとも解ける年代問題が多いが、ここでは訓民正音(ハングル)や字喃(チュノム)、さらに契丹文字が作られた年代を扱っている。もちろんこれらを数字で正確に記憶できるものではない。そこで考えてみると、aの李朝(李氏朝鮮)の成立は1392年であるので、訓民正音の作成は15世紀以降であろうと判断できる。そして遼の成立は916年だが、五代十国(907~979)の初期に成立だと思い出しても10世紀の誕生だとわかり、また北宋の末期に金に滅ぼされた(1125)ので、契丹文字の作成はその間のことだと割り出せる。そして陳朝(大越国)は、フビライの元の侵攻を3回にわたり撃退し、民族意識が高まったことを受けて字喃(チュノム)を作成したという流れがわかっているれば、13世紀=モンゴルの世紀という基本から、その作成は13世紀末あたりと想像できる。こうして考えれば、$b \rightarrow c \rightarrow a$であると絞り込んでいけるのだが、陳朝は1400年まで存続しているため(その滅亡後に明の永楽帝が北ベトナムを制圧)、aとcのどちらが先かを完全に判断することが難しい。したがって、難易度の高い問題である。</p>
	問4	<p>タミル語がドラヴィダ系言語の代表例の1つであることは、受験生であれば押さえておきたいポイントであるため、アはタミル語だと判断がつくことが望ましい。それは、アーリア人の進入によりドラヴィダ系は南インドへ移動→南インドのパンディア朝・チョーラ朝では初期にタミル語文化が繁栄、というポイントからも判断がつくことである。そしてそれができれば正答は③しかない。なお、ヒンディー語がムガル帝国以後は北インドの代表的言語となったことは重要ポイントだが、それがどの系統の言語かを問うというのはなかなか意表を突いた出題である。しかし、古くからインド北部はアーリヤ系の人々が主体→アーリヤ人はインド=ヨーロッパ系、と順を追って考えると割り出せる。ここではアのタミル語さえわかれば正解はできるのだが、いざという時にはこのように思考力を働かせる習慣をつけておきたいものである。</p>
	問6	<p>こうした現代史の各事件に関し、すべて数字で正確な年号を記憶するのは現実的ではない。そこで、こうした場合は各事件に関わる政治家などから推測していくと有効である。まず②だが、これはフルシチョフ第一書記(ソ連)とアイゼンハウアー大統領(合衆国)の時代に発生した事件(1956)。またこの直前には、ジュネーブ4巨頭会談(1955)やソ連共産党第20回大会(1956)がおこなわれており、1950年代だと推測しやすい。③は、ニクソン大統領(合衆国)の時期に起こった出来事(1971)。④はキューバ危機(1962)の原因であり、フルシチョフ第一書記(ソ連)とケネディ大統領(合衆国)の時代のこと。ちなみに、①でのインドとパキスタンの核実験であるが、ケネディ大統領の後継であるジョンソン大統領時代に成立した核拡散防止条約(1968)の段階では、まだ核保有国は米・英・仏・ソ・中の五大国だったことから考えると、1950年代はあり得ない(実際はインド=1974、パキスタン=1998)。</p>